

ボランティア活動奨励賞について

1 経緯

負担金、補助金、成長支援事業は、あらかじめ幹事会が事前調査を行い、審査会にあげる事業を選定し、審査会は、対象団体のプレゼンや質疑等を経たのち対象事業を決定している。

一方、奨励賞は、幹事会、審査会ともに、推薦書類（他薦、自薦）のみで審査するため、委員・幹事から「ボランティア団体の活動実態が分からず、評価しづらい」とのご意見をいただいたことから、平成28年度より、幹事会が審査会に付議することを決定した団体について現地調査を実施している。

2 令和元年度現地調査

令和元年11月6日の幹事会において審査会の審査対象と決定された団体について、幹事会の意見を踏まえて特に確認すべきと思われる事項を中心に、現地調査を実施。

(1) 対象団体

幹事会で、審査会に付議すると決定された8団体

(2) 調査事項

応募書類のみでは実態が分からない事項や、幹事会で出された意見を踏まえた確認事項等について聴き取り調査を実施。

併せて、全ての団体に、今後の活動並びに受賞の効果について聴取。

(3) 調査者

かながわ県民活動サポートセンター職員（原則2名）

(4) 実施時期

令和元年11月21日から12月10日

(5) 報告方法

調査終了後、その結果を所定の様式に取りまとめて、速やかに幹事長等（幹事長並びに幹事長職務代理者）に報告の上、「現地調査結果」として審査会に報告。

【根拠】

（神奈川県ボランティア活動推進基金審査会規則）

第2条 神奈川県ボランティア活動推進基金審査会（以下「審査会」という。）は、かながわボランティア活動推進基金21条例（平成13年神奈川県条例第10号）第7条に規定する事業等の実施に関し、知事の諮問に応じて調査審議し、その結果を報告し、又は意見を建議する。

（ボランティア活動奨励賞実施要領）

第4条 知事は、前条の規定により候補者の推薦があった場合には、神奈川県ボランティア活動推進基金審査会（以下「審査会」という。）に被表彰者の選考を諮問する。

2 審査会は、諮問を受けて調査審議を行い、その結果について知事に答申する。

（かながわボランティア活動推進基金21事業等の募集のご案内）

II. 基金21の4つのメニュー

個別事業 ボランティア活動奨励賞

1 事務等の流れ ③選考

審査会は、推薦書類及び幹事会による事前調査の結果報告等をもとに総合的な審査を行い、推薦されたボランティア団体等の中から、奨励賞の被表彰者としてふさわしい団体等を選考します。

III. 審査

1 審査の方法・流れ

(3) ボランティア活動奨励賞

・・・被表彰団体等の選考は、審査会の下に置かれる幹事会による事前調査の結果報告等をもとに行われます*。

* 必要に応じて追加資料の提出を求めるほか、現地調査等を行い、その結果を審査会に報告します。

【審査基準】

基本的な視点	評価項目と配点			
過去の活動に対する評価	先進性・普及性	他のボランティア団体等の活動のモデルとなるような実践的な活動か	5点	10点
	実績	これまで継続して取り組んできた活動は、社会にとって必要性、重要性が高く、地域社会への貢献度が高いものか	5点	
今後の活動に対する評価	波及性	地域や社会の課題に光を当てたもので、他のボランティア団体等の活動に大きな影響を与えることが見込まれるか	5点	10点
	継続性	今後も活動を継続させ、地域社会に貢献することが期待できるか	5点	
受賞の効果	受賞の効果	受賞を契機として、活動がさらに発展していくことが期待できるか	5点	5点
合 計				25点

【平成30年度ボランティア活動奨励賞受賞者一覧】

1	団体名	逗子ゼロ・ウェイストの会		
	代表者	田中 尚武		
	所在地	逗子市	活動開始時期	平成21年5月
	活動分野	環境の保全		
	活動の概要	持続可能な資源循環型社会「ゼロ・ウェイストのまち逗子」を構築し、豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐため、7R「リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リフォーム・リペア・レンタル」の促進を図っている。		
選考理由	3Rにとどまらず、「7R」の促進を掲げ、多様な団体や市民、行政、商工会等と連携し、地域と一体となった取組みを進めています。中でも、日常の地道な活動の積み上げにより強固なネットワークが広がっていること、また、提案に止まらない市との協働事業の推進力に秀でている点を高く評価しました。地域における環境保全活動のモデルと言えるものであり、今後も、県内各地域での「ゼロ・ウェイスト」の実現に向けて、常設の不用品無料交換の場（エコ広場）の運営、商工会と市との協働による生ごみ処理機（バクテリア de キューロ）の普及、学習会やイベントなどを通じ、その牽引役となって頂くよう大いに期待します。			
2	団体名	NPO 法人ビーイング久里浜		
	代表者	前田 房子		
	所在地	横須賀市	活動開始時期	平成21年4月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	一人暮らしの高齢者が増加している中で、地域包括支援センターや民生委員と連携しながら、毎月50件近い高齢者宅を訪問し、在宅傾聴による高齢者を守る活動を行っている。		

	選考理由	<p>傾聴活動が高齢者介護施設等で行われることが多い中、貴団体は、30人程度の会員で、自宅を訪問して行う在宅傾聴を年間600件程度、10年にわたり継続されている点を高く評価しました。自宅への訪問は、介護保険制度であれば、必要に応じた介護サービスを提供するために当然行われることですが、ボランティアとして傾聴活動を行っている貴団体への信頼は、既に利用した方々から得られたものであり、正に努力の賜物であります。今後とも、優れた活動力や人材養成力を活かした活動が、他団体のモデルとなることで、県域全体に活動を広げていただくよう大いに期待します。</p>		
3	団体名	女性防災クラブ平塚パワーズ		
	代表者	菅野 由美子		
	所在地	平塚市	活動開始時期	平成8年5月
	活動分野	災害救援		
	活動の概要	女性ならではのアイデアを盛り込んだ家庭防災を実践し、身近な物で作る防災グッズの作り方を広めるとともに、冊子「防災減災パワーズブック」を発行するなど、各地で防災啓発活動を行っている。		
	選考理由	<p>20数年の長きにわたり、人の心の豊かさ・暖かさからなる、きめ細かい視点を大切にしながら、行政と一体となって家庭防災の実践と普及啓発活動に地道に取り組まれてきた点を高く評価しました。特に、身近な物で作る防災グッズの作り方、応急手当、非常食づくり、ロープワーク、パワーズ段ボールトイレなどの啓発活動は、災害時において多くの方々の支えとなることは間違いありません。また、「防災減災パワーズブック」の英語版や点字版、音訳CDの発行など災害弱者である障がい者や外国人にも配慮したダイバーシティの視点や、今後さらに高齢者、県域、そして開発途上国支援へと新たに広がっていくことを大いに期待します。</p>		
4	団体名	ハイキング・クリーン		
	代表者	御法川 齊		
	所在地	鎌倉市	活動開始時期	昭和52年4月
	活動分野	環境の保全		
	活動の概要	40年にわたりハイキングをしながらゴミ拾いを行うハイキング・クリーン活動を行うとともに、山道整備を20年間実施するなど、環境整備活動を資金をかけずに継続的に行っている。		
	選考理由	<p>1977年の設立以来、40年に及ぶ息の長い活動を、新たな課題（安全見守り・山道整備等）を織り込みながら続けてこられたことは、多くの市民活動団体にとっても学ぶべき点が多いと考えます。個人的趣味を社会貢献活動と結びつけたことで、ややもすれば難しく考えがちな環境保全・環境学習を、楽しみながら日常生活の中に位置付け、また他団体との協働や次世代へのバトン渡しにも取り組まれている点も示唆に富むものです。今後は、活動の裾野を地域社会や次世代に広げることで、「捨てさせない」「捨てたくなくなる」文化の形成も射程に入れ、更に活動を発展させつつ継続されるよう大いに期待します。</p>		

5	団体名	特定非営利活動法人地域福祉を考える会		
	代表者	宮森 孝史		
	所在地	伊勢原市	活動開始時期	平成4年4月
	活動分野	保健、医療又は福祉の増進		
	活動の概要	乳幼児の子育て支援や学童保育、子ども食堂の運営、高齢者への見守り電話など、幅広い分野で、ボランティア会員の協力により、その時の社会に必要とされている活動を展開している。		
選考理由	<p>四半世紀の長きにわたり、その時々地域の福祉ニーズを的確にとらえ、ボランティア会員の組織化と共に福祉サービスを拡げ、提供し続けてきた点、「地域の福祉ボランティア活動モデル」として高く評価しました。昨今、全国的にも子どもの貧困問題が注目されている中、地域住民を巻き込み、多くの大人と子どもが参加を待つ子ども食堂も展開されていることは、貴団体が地域の中で受け入れられている証です。今後とも、その優れた専門性と事業展開力を活かし、高齢者、障がい者、児童、外国籍のルーツをもつ人々まで、多様で幅広い地域の福祉ニーズをとらえ、活動がさらに発展し、継続されるよう大いに期待します。</p>			